

2022 年 11 月 15 日

幹事長
増田昌人

第 4 次沖縄県がん対策推進計画（当協議会案）の進捗状況について

2022 年

8 月 第 4 次沖縄県がん対策推進計画（当協議会案）を作成し、県に提案することを、本協議会で決議した

11 月 がん対策推進協議会で「第 4 次沖縄県がん対策推進計画（案）」と「ロジックモデル」が提示された

12 月 ベンチマーク部会の開催

第 4 次沖縄県がん対策推進計画（当協議会案）の作成を開始する予定

2023 年

2 月 第 4 回協議会で協議

5 月 第 1 回協議会（2023 年度）で協議会案の完成

6 月 議長から、沖縄県に対して提案する

参考資料

資料 1 3 - 2 前回協議会への提案文書

資料 1 3 - 3 がん対策推進協議会「ロジックモデル」

2022年8月5日

協議会委員各位

沖縄県がん診療連携協議会幹事長
増田昌人

第4次沖縄県がん対策推進計画（当協議会案）を作成する件について

2018年から始まった第3次沖縄県がん対策推進計画（以下、沖縄県がん計画）による沖縄県のがん対策も5年目に入った。現在、沖縄県によりその中間評価が行われている途中である。また、来年度は、第4次沖縄県がん計画の策定が行われる。

一方、厚生労働省では第8次医療計画の策定のための協議が始まっており、そこではロジックモデルを用いての作成が始まっている。このことから、次期沖縄県がん計画も第8次医療計画と同様にロジックモデルを基本に作成することが必要である。

本協議会は、がん対策について、ロジックモデルを用いて行うことに関しては10年以上の経験があり、各専門部会でも同様である。

また、第2次沖縄県がん計画および第3次沖縄県がん計画の作成時にも、当協議会において協議会案を作成し、議長から沖縄県知事に提案している。

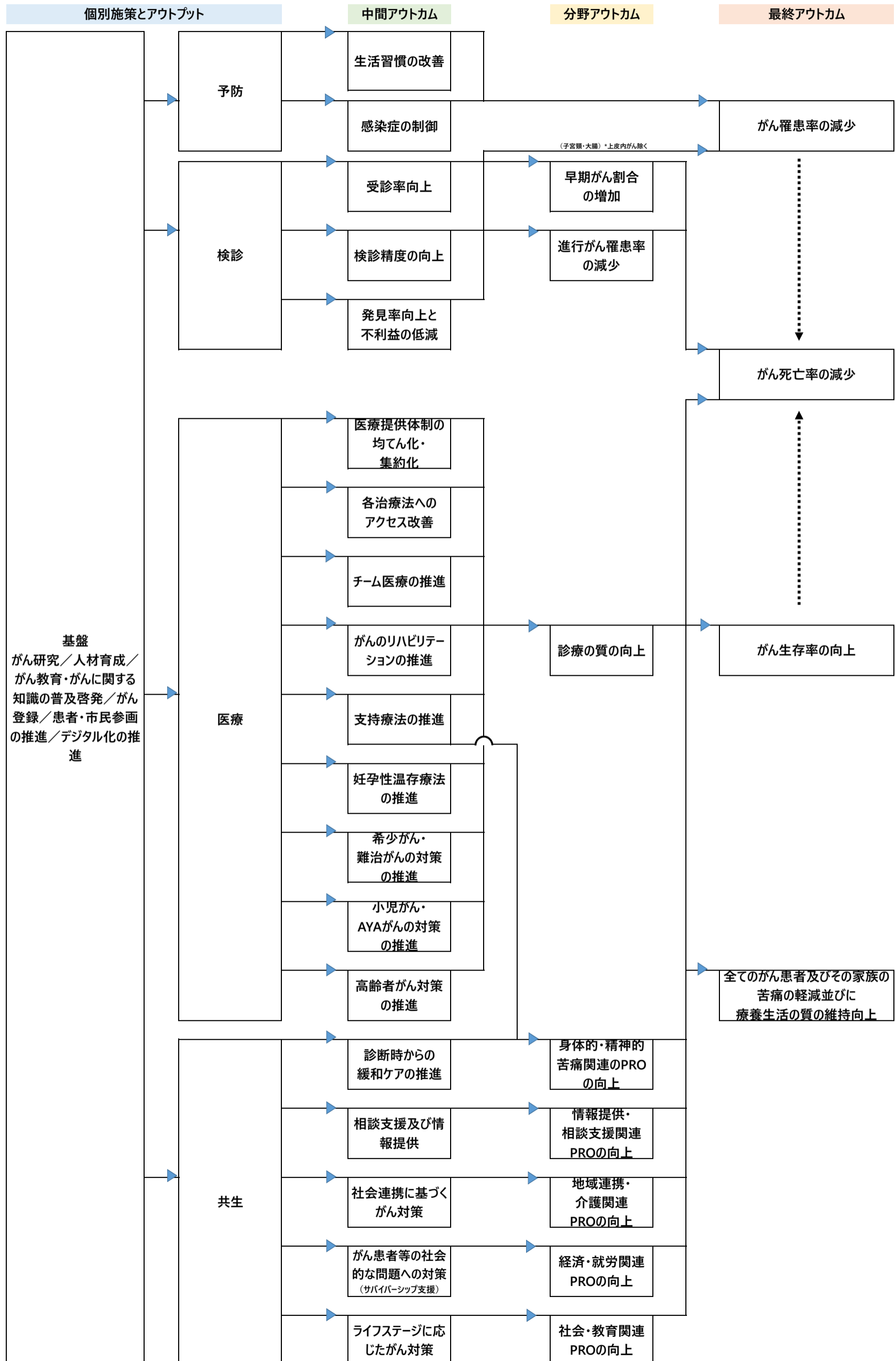
これらのことを踏まえて、第4次沖縄県がん計画（当協議会案）を作成し、沖縄県に提案することを提案します。

第4次沖縄県がん計画（協議会案）の概要

1. 本年9月から検討を開始する
2. たたき台はベンチマーク部会が中心となり、各専門部会の意見を聞きながら作成する
3. 第3回協議会、第4回協議会で協議し、年度内の完成を目指す
4. 最終案は、令和5年度第1回協議会で決定する
5. 議長から、沖縄県に提案する
6. ロジックモデルを用いて作成する。
7. 意見は、協議会委員および専門部会委員からだけでなく、拠点病院からや患者会からも広く募る
8. がん計画の中には、評価指標も入れ込む

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：基本ロジックモデル

第85回がん対策推進協議会
令和4年11月11日
資料2-4
2022年11月9日時点版（未定稿）



第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#2 がん予防<がんの2次予防（がん検診）>

2022年11月9日時点版（未定稿）

受診率対策について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	効果的な受診勧奨策の推進	受診勧奨実施市町村* 数	新	検討中
1-2	職域での実施状況の継続的な把握	指針に基づく検診の実施率	新	検討中（保険者データヘルス全数調査または厚労科研）

*特別区を含む。以下、同じ。

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	受診率の向上	検診受診率	1031	国民生活基礎調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	検診がん種の早期がん割合の増加	がん種別早期がん割合	新	全国がん登録
3-2	検診がん種の進行がん罹患率の減少	がん種別進行がん罹患率	新	全国がん登録

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	検診がん種の死亡率減少	がん種別年齢調整死亡率	1002	人口動態統計
4-2	がん罹患率（子宮頸・大腸）*；減少 ※	がん種別年齢調整罹患率	1004	全国がん登録

*；上皮内がん除く。
※がん検診により子宮頸部・大腸の前がん病変を早期発見して治療介入すれば、子宮頸がん・大腸がんの罹患数が減少する。

がん検診の精度管理等について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-3	レセプトやがん登録情報の活用に係る技術的支援	市町村への支援数	新	検討中（厚生労働科学研究（仮））
1-4	精密検査受診率の低い市町村に対する都道府県による指導・助言	実施都道府県数	新	都道府県用チェックリスト実施率調査
1-5	職域における精度管理向上のための保険者への技術的支援	支援保険者数	新	検討中（厚生労働科学研究（仮））
1-6	市町村での精密検査実施医療機関リストの提供	実施市町村数	新	検討中（市区町村におけるがん検診の実施状況調査）

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-2	精検受診率の向上	精検受診率	1032	地域保健・健康増進事業報告
2-3	がん発見率の向上	がん発見率	新	地域保健・健康増進事業報告
2-4	不利益の低減	偽陽性割合	新	地域保健・健康増進事業報告

科学的根拠に基づくがん検診の実施について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-7	対象年齢・検診間隔を含めた指針に基づくがん検診の完全遵守	遵守市町村数	新	市区町村におけるがん検診の実施状況調査
1-8	指針に基づかないがん検診の中止	中止市町村数	新	市区町村におけるがん検診の実施状況調査
1-9	対策型検診の項目変更に係るプロセスの明確化と普及実装研究の推進	研究実施数	新	検討中

凡例：
 ・#： ロジックモデル内の便宜上の通し番号 ※全体確認後、改めて付番。
 ・3期： 第3期中間評価指標で採用されていた指標は当時の番号。新規の場合、「新」。
 ・データソース： 用いる調査等。既存のデータベースでは情報が取得できない場合、「検討中」と記載。具体的には、既存調査の見直しや厚労科研等での対応を検討している。想定される調査について（）内に記載。

医療提供全般

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	地域特性に応じた拠点病院等の役割分担を踏まえた集約化の推進	役割分担に関する議論が行われている都道府県の数	新	現況報告
1-2	地域の実情に応じた危機対応連携体制の整備	BCPに関する議論が行われている都道府県の数	新	現況報告
1-3		（参考）BCPを整備している病院の数	新	現況報告
1-4	がん診療連携拠点病院等、小児がん拠点病院等、がんゲノム医療中核拠点病院等の相互連携の検討推進	都道府県協議会に小児がん拠点病院等が参加している都道府県の数※	新	現況報告

※ゲノム拠点は自動的に連携される。

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	医療機関の機能分担を通じた質の高い安心な医療の効率的な提供	専門的な医療を受けられたと思う患者の割合	新	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	がんの死亡率の減少	がんの年齢調整死亡率	2001	人口動態統計
4-2	がんの生存率の向上	がん種別5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
4-3	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査

がんゲノム医療

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-5	がんゲノム医療連携体制整備	がんゲノム医療中核拠点病院等の数	2013	現況報告（がんゲノム）
1-6		遺伝医学に関する専門的な知識及び技能を有する医師数（臨床遺伝専門医）	2015	現況報告（がんゲノム）
1-7		遺伝医学に関する専門的な遺伝カウンセリング技術等を有する者の数（認定遺伝カウンセラー）	2016	現況報告（がんゲノム）
1-8		遺伝カウンセリング等を行う部門につないだりする者の数（がんゲノム医療コーディネーター）	2017	現況報告（がんゲノム）
1-9		薬物療法に専門的な知識及び技能を有する医師の数	2018	現況報告（がんゲノム）

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-2	がんゲノム医療へのアクセシビリティの向上	がんゲノム情報管理センターに登録された患者数	2019	C-CAT
2-3		がんゲノム医療拠点病院等において遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリングを実施した患者数	2018	現況報告（がんゲノム）
2-4		がん遺伝子パネル検査を実施した患者のうち、エキスパートパネルで推奨された薬剤が投与された患者の割合	新	C-CAT
2-5		ゲノム情報を活用したがん医療についてがん患者が知っていると感じた割合	2020	患者体験調査

手術療法

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	低侵襲性の新しい治療法の普及	がんの鏡視下手術の割合	2031	現況報告
1-2	科学的根拠に基づく手術療法が安全に実施できる体制の整備	厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録している拠点病院等の割合	新	現況報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	安全かつタイムリーな手術治療の実施	拠点病院における5大がん患者の術後30日以内の死亡率	2032	検討中（院内がん登録+DPCを利用（仮））
2-2		診断から手術までの日数	新	検討中（院内がん登録+DPCを利用（仮））

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査
3-2		（標準的な）診断・医療の進歩	2003	患者体験調査
3-3	治療選択についての情報提供の充実（必要な情報へのアクセス改善）	治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	新	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	がんの死亡率の減少	がんの年齢調整死亡率	2001	人口動態統計
4-2	がんの生存率の向上	がん種別5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
4-3	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査

放射線療法

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-3	科学的根拠に基づく放射線療法が安全に実施できる体制の整備	IMRT加算をとっている拠点病院の割合	2035	院内がん登録+DPC、現況報告
1-4	放射線療法に関わる必要な人材配置の整備	放射線治療専門医が常勤で配置されている拠点病院の割合	2036	現況報告
1-5		診療放射線技師が2名以上配置されている拠点病院等の割合	新	現況報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-3	必要な患者に対する、最適な放射線治療のタイムリーかつ安全な実施	放射線治療関連QI	新	検討中
2-4		手術から放射線治療開始までの期間	新	検討中

化学療法

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-6	科学的根拠に基づく化学療法が安全に実施できる体制の整備	がん専門薬剤師またはがん薬物療法認定薬剤師が配置されている拠点病院の割合	2040	現況報告
		1拠点病院あたりの、がん薬物療法専門医数	2041	現況報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-5	最新の知見に基づく適切な化学療法のタイムリー・安全な実施	化学療法/薬物療法関連QI	2021	検討中
2-6		手術から化学療法開始までの期間	新	検討中（院内がん登録+DPC（仮））

免疫療法

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-7	科学的根拠に基づく免疫療法を安全に提供する体制の整備	免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携等して対応している拠点病院等の割合	新	現況報告
1-8	科学的根拠に基づく治療法に関する情報提供及び普及啓発	自施設で対応できるがんについて提供可能な診療内容を病院HP等でわかりやすく広報している拠点病院等の割合	新	現況報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-7	国民が免疫療法に関する正しい情報を取得	科学的根拠を有する免疫療法について国民が必要な情報を取得できている割合	2043	世論調査

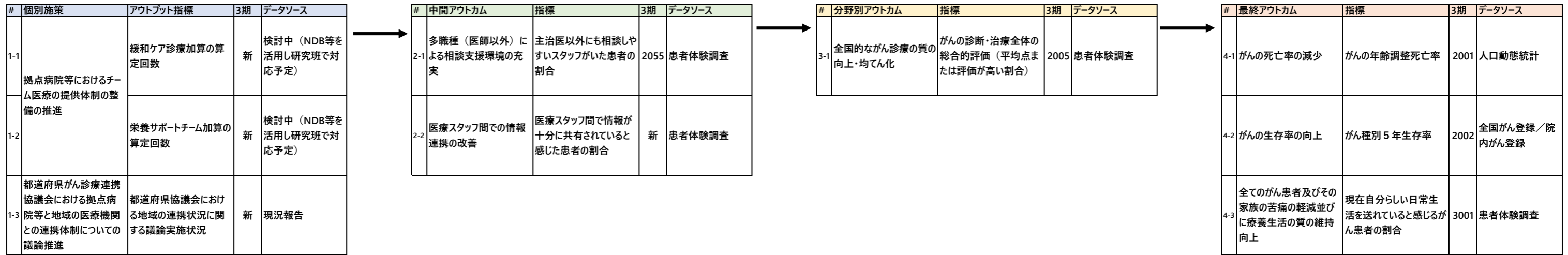
病理診断

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-9	病理診断に係る専門的な知識及び技能を有する医師の配置推進	常勤の病理専門医が1名以上配置されている拠点病院等の割合	新	現況報告

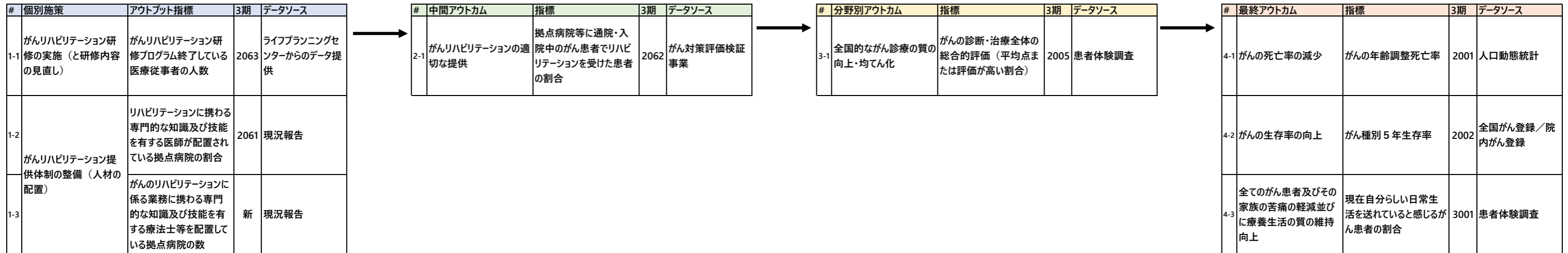
#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-8	タイムリーな病理診断	初診時から確定診断までの1ヶ月未満の人の割合	新	検討中（患者体験調査or院内がん登録+DPCorNDB（仮））

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#5 がん医療＜チーム医療の推進＞

2022年11月9日時点版（未定稿）

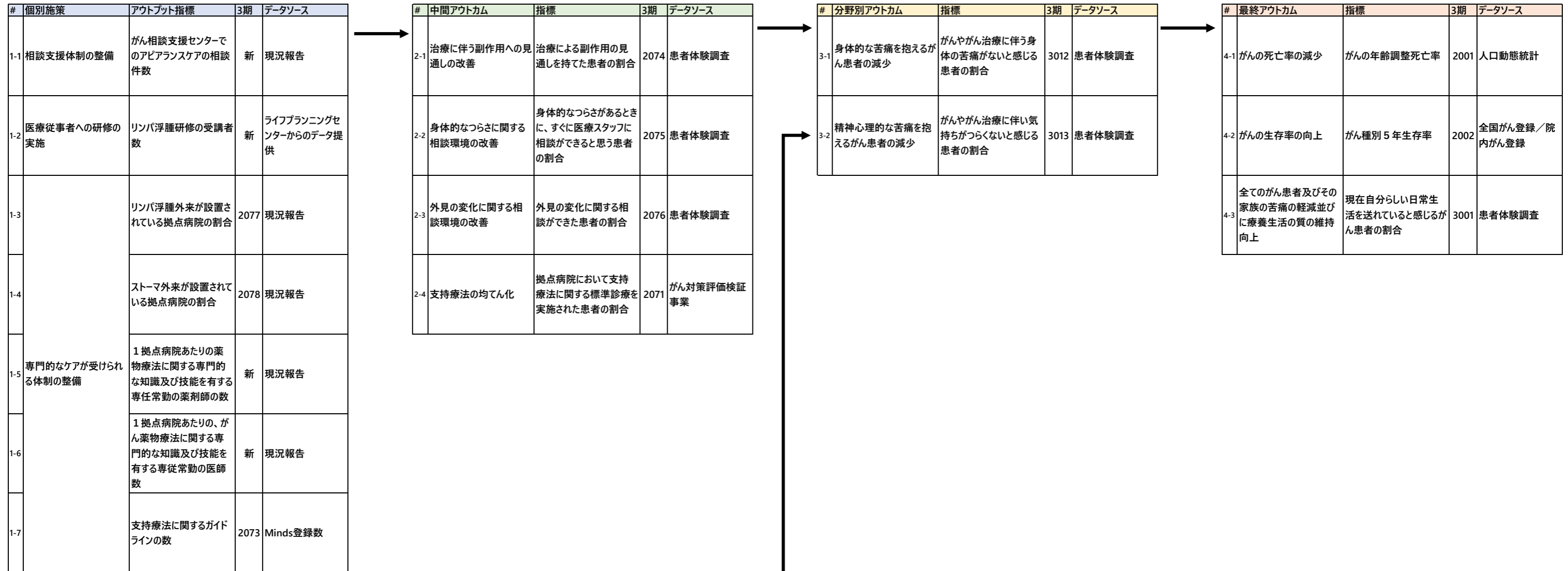


第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#6 がん医療＜がんのリハビリテーションの推進＞

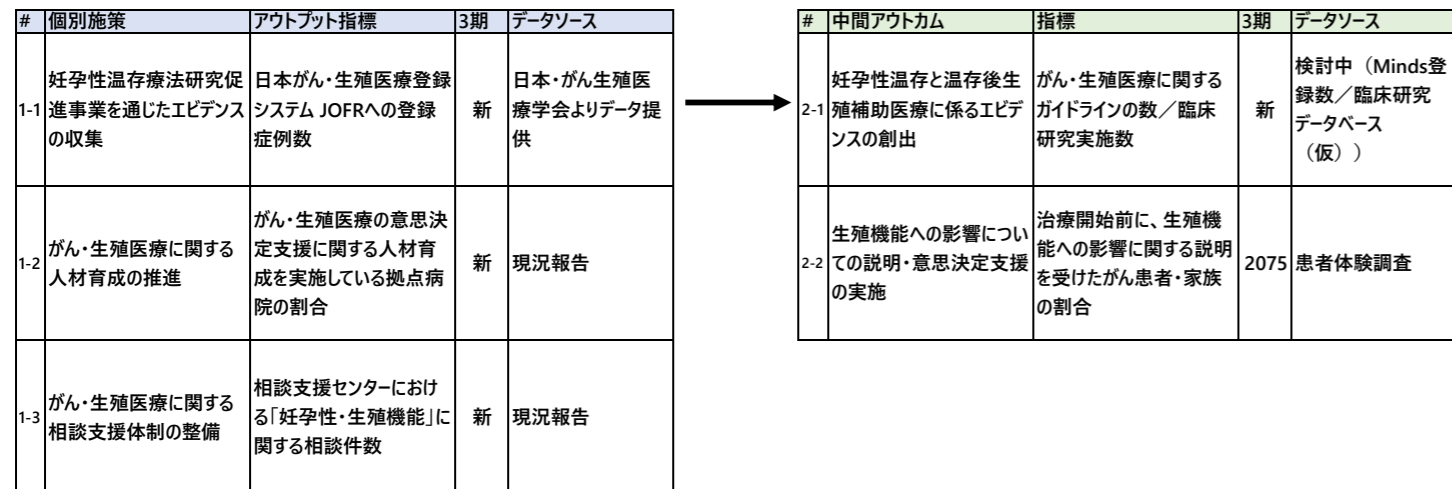


第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#7 がん医療＜支持療法の推進＞

2022年11月9日時点版（未定稿）



第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#8 がん医療＜妊孕性温存療法の推進＞



第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#9 がん医療＜希少がん、難治性がん対策の推進＞

2022年11月9日時点版（未定稿）

希少がん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	（希少がんに関する）患者及びその家族等の目線に立ったわかりやすい情報提供の推進	希少がんホットラインへの問い合わせ数	新	国立がん研究センターよりデータ提供
1-2	（希少がんに関する）拠点病院等の役割分担に基づく医療機関間の連携体制の整備	希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院の数と他施設へ紹介する拠点病院の数	新	現況報告
1-3	病理診断に係る希少がん中央機関と拠点病院等との連携体制の整備	中央病理コンサルテーションの数	新	国立がん研究センターよりデータ提供
1-4	（希少がんに関する）存在診断、治療法の開発のための研究推進	希少がんに対する治験を実施している拠点病院数	新	現況報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	希少がんの患者の診療情報へのアクセス拡充	治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた希少がん患者の割合	新	患者体験調査
2-2	希少がん患者の集約化	希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数	新	現況報告＋院内がん登録
2-3	連携の円滑化（速やかな医療の提供）	希少がん患者の初診から診断までの時間、診断から治療開始までの時間	2082	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	希少がん患者の高度かつ専門的な医療へのアクセシビリティの向上	希少がんについて、専門的な医療を受けられたと感じているがん患者の割合	2083	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	希少がんの生存率向上	希少がんの5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
4-2	希少がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる希少がん患者の割合	3001	患者体験調査

難治性がん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-5	（難治性がんに関する）患者及びその家族等の目線に立ったわかりやすい情報提供の推進	難治性がんに関するHP等の整備を行っている拠点病院等の数	新	現況報告
1-6	（難治性がんに関する）拠点病院等の役割分担に基づく医療機関間の連携体制の整備	難治性がん診療を積極的に受け入れている拠点病院の数と他施設へ紹介する拠点病院の数	新	現況報告
1-7	（難治性がんに関する）存在診断、治療法の開発のための研究推進	難治性がんに対して臨床試験を行っている拠点病院等の数	新	現況報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-4	難治性がん患者の集約化	難治性がん（※1）診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数	新	患者体験調査

※1. 膵がんを代表例として想定。難治性がんの定義について、今後検討が必要。

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-2	（難治性がんを含む）全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）（※2）	2005	患者体験調査

※2. がん種別で評価が困難なため全体の評価で代替。

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	難治性がんの年齢調整死亡率の減少	難治性がん（代表例：膵がん）の年齢調整死亡率	2002	人口動態統計
4-2	難治性がんの生存率向上	難治性がん（代表例：膵がん）の5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
4-3	（難治性がんを含む）がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合（※2）	3001	患者体験調査

※2. がん種別で評価が困難なため全体の評価で代替。

小児がん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-1	小児がん医療提供体制の整備	小児がん拠点病院で小児がんの薬物療法に携わる専門的な知識及び技術を有する医師の数	新	現況報告（小児がん）
1-2		小児がん拠点病院で小児の手術に携わる、小児がん手術に関して専門的な知識及び技術を有する医師の人数	新	現況報告（小児がん）
1-3		小児がん拠点病院で小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技術を有する医師の人数	新	現況報告（小児がん）
1-4	地域の実情に応じた長期フォローアップの在り方に係る検討の推進	都道府県協議会でフォローアップの連携体制について議論している都道府県数	新	現況報告（小児がん）
1-5	長期フォローアップの更なる推進	長期フォローアップ外来を設置している小児がん拠点病院等の施設数	新	現況報告（小児がん）

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-1	小児がん診療の集約化	小児がん拠点病院で治療を受けた小児がん患者の割合	新	現況報告＋院内がん登録
2-2	小児がん相談支援の拡充	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あると思う小児がん患者の割合	新	小児患者体験調査
2-3	長期フォローアップの認知・利用拡充	長期フォローアップについて知っていると回答した小児がん患者の割合	新	小児患者体験調査
2-4	小児がん領域での研究開発の推進	小児がん拠点病院において実施されている治験数	新	現況報告＋臨床研究情報ポータルサイト

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-1	小児がん診療の質の向上・均てん化	小児がん患者のがんの診断・治療全般の総合評価（平均点又は評価が高い人の割合）	2083	小児患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-1	小児がん患者の生存率向上	小児がん患者の5年生存率	2091	院内がん登録

AYA世代のがん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
1-6	AYA世代のがん医療提供体制の整備	多職種からなるAYA支援チームを設置している拠点病院数	新	現況報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
2-5	AYA患者の状況や希望に応じた支援の拡充	がん診断～治療開始前に、病気や療養生活について相談できたと感じる若年がん患者の割合	3002	患者体験調査
2-6		外見の変化に関する相談ができた若年患者の割合	2076	患者体験調査
2-7		妊よう性に関する説明を受けた若年がん患者の割合 ※再掲	2093	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
3-2	AYA世代のがん診療の質の向上・均てん化	若者がん患者の診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
4-2	若年がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる若年がん患者の割合	3001	患者体験調査

第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル（案）：#11 がん医療＜高齢者のがん対策の推進＞

2022年11月9日時点版（未定稿）

